

東京音楽大学

4年生

坂口

璃々己さん



発見! ちょっと気になるまちの人

マリンバとは —

— 自分そのものです。



なんとなく選んだマリンバが、のちに自分のすべてになった

——世界でも活躍し始めている坂口さんがマリンバを始めたきっかけはかなり意外なものでした。

「本当は中学でテニス部か吹奏楽部で迷っていましたが(笑)迷ったあげく吹奏楽部に入り、当初サックスを吹きたかったんですが、いまいち音がうまく出なかったので打楽器を始めました。その後音楽科のある高校を受験するのに、試験が小太鼓かマリンバを演奏するものだったので、なんとなくマリンバを選んだら、高校在学中もよく演奏するようになり、大学ではさらに弾くようになりました。正直ここまで好きになって弾き続けるとは思っていませんでした。今はマリンバなしでは生きていけないです。」



伊奈町出身。21歳。
中学校で打楽器を始め、その後高校・大学でマリンバを専攻し頭角を現す。学内コンクールはもちろん、KOBÉ国際音楽コンクールをはじめ数々のコンクールで優秀な成績を残し、昨年の9月に行われた第16回イタリア国際打楽器コンクール(マリンバB部門Absolute)では100点満点で1位を獲得した。

一からリサイクルをつくりあげることによってわかったこと

——取材日当日は大学内の“公開リサイクル試験”がありました。この試験は、演奏するだけでなく自身で企画・運営を行うものでした。試験終了後…

「改めて自分はまだまだだと感じました。やはり何回やっても演奏前は緊張します…。昨日までは緊張より“恐怖”でしたね。一からつくりあげるといのは初めてなので、どうなるかわからないという恐怖…今までで一番大きな挑戦でした。演奏だけでなく運営面が大変で、特にプログラム作成は手こずりました。プログラムは曲の解説を書くのが普通ですが、今回は学内の演奏会ともあって、詩的に書いてみるというチャレンジをしました。演奏する曲に対する想い、曲にどう向き合うか、という視点で作りました。一般公開の試験なので、一般の方がこのプログラムを読んだあとに演奏を聴いて、曲への想像が広がればいいなと思います。」

イタリア国際打楽器コンクールでの受賞の背景

——このコンクールにおいて日本人で100/100点の1位はここ10年ほど出ておらず、快挙となる成績でした。国際的なコンクールでの演奏はさぞ緊張したのではないかと聞くと…

「正直今日の試験の方が緊張したし大変でした。ヨーロッパに行くのは初めてで、早めに到着して3日間観光しました。田舎の海沿いの町で、住民の方が親切な方ばかりで、町になじんでから挑めました。イタリアの有名なところは行けなかったのが今度行ってみたい(笑)」

——なんとも意外な答えに私も笑ってしまいました。アットホームな雰囲気なコンクールだったと語る坂口さん。そういった環境でのびのびと演奏できたことが、快挙につながったのではないのでしょうか。



公開リサイクル試験に向けて練習する坂口さん ▶



坂口さんにとって、マリンバとは——

「自分そのものです。本当に思っていることはなかなか言えないし伝えるのは難しいですが、その思いや言葉に表せない感情を、音楽で表現して誰かに伝えたいと思っています。マリンバは私にとって人と関わる手段なのかもしれません。つらいこともあります。演奏に喜んでくださっているお客さんを見ると、またやりたくなっちゃうんですね！」

——坂口さんが演奏を始めた瞬間、私たち観客を含めたすべてが背景の一部になって、まるで坂口さんとマリンバだけがこの場にいるかのような感覚になりました。その音には、坂口さんの真面目な性格と努力が表れていたんだと、取材をしてわかりました。今後の坂口さんの世界での活躍を期待しています！

坂口さんのインタビューをもっと読みたい方は
いますぐいなナビホームページで全文をチェック！▶

